

地域の未来に想いを込める シーサイドフェスティバル



主催：一般社団法人相馬青年会議所

ステージにはアーティストの「LOVE」さんやクラップス相馬などが出演し、参加者らと共に大いに盛り上がりました。

フィナーレとして行われた「ホシテラス」では、復興から立ち上がる福島未来や地域の未来への想いを書き入れた200個のスカイランタンが夜空に放たれ、参加者らは幻想的な光景を眺めていました。
※ホシテラスで使用されたランタンは、相馬高等学校や相馬東高等学校の生徒がボランティアで準備したものです。

シーサイドフェスティバルは7月3日、松川浦大橋下の公園で行われ、市内外から多くの親子らが参加しました。相馬青年会議所が主催。同イベントには、ステージ体験ブース、飲食ブースが設けられました。
体験ブース内で子どもたちは、相馬沖の魚に親しむことができる「見て触れるわくわく水族館」でホシザメやフグなどに触れたほか、潮干狩りを体験できるコーナーで熊手を使って砂の中のアサリを掘り出しました。



市の東日本大震災への 取り組みを学ぶ まちづくり出前講座



まちづくり出前講座「相馬市の復興〜東日本大震災を乗り越えて〜」は6月24日、桜丘小学校で行われ、同校5年生の児童80人が参加しました。同校は、震災による相馬市への影響や復興への取り組みを学ぶため、市のまちづくり出前講座を受講。
講師として訪れた市企画政策課の職員が、市の復興への取り組みに関する説明や東日本大震災に関するクイズなどを行いました。
児童らは真剣に説明を聞くとともに、自分たちにこれから何ができるかを考え、意見を発表しました。

支援ありがとう



6月16日、石黒秀司国際ロータリー第2530区ガバ

ナー、赤井博道同相双分区ガバナー補佐、菅野秀士同地区代表副幹事ら6人が市役所を訪れ、立谷市長に寄付金を手渡しました。

同団体は、2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震により被災した地域の日も早い復旧を願い、寄付を行ったもの。

立谷市長は「寄付ありがとうございます。市の復旧事業などに有効に活用したいと思えます」と感謝の言葉を述べました。

豪雨から命を守るために

山上小で出前講座

原因や避難に関する動画を放映しました。

相双建設事務所の豪雨から子どもの命を守る出前講座は7月6日、山上小学校で行われ、同校4年生〜6年生の児童14人が参加しました。

同校は総合学習の時間を活用して、自然災害から自分の命を守るための知識を身につけ、防災意識の高い児童を育成することを目的に出前講座を受講。

講師として訪れた相双建設事務所の職員が、災害の発生



寄付ありがとう

市総合建設業組合



6月24日、小野内重雄市総合建設業組合組合長が市役所を訪れ、立谷市長に寄付金を手渡しました。

市内の建設会社9社からなる同組合は、総会で事業費の一部を市新型コロナウイルスワクチン接種メディアカルセンターの活動支援として寄付することを決定。

立谷市長は「いただいた寄付を有効活用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。

社会を明るくする運動メッセージ伝達式

令和3年度の「社会を明るくする運動」メッセージ伝達式は7月1日、市役所で行われ、関係者ら23人が参加しました。

佐藤宏相馬地区保護司会相馬支部長が内閣総理大臣のメッセージ、唯野一誠市青少年健全育成市民会議副会長が県知事のメッセージをそれぞれ読み上げ、阿部勝弘副市長に手渡しました。

メッセージを受け取った阿部副市長は「コロナ禍の中でも皆さんの温かい心で明るい



地域社会の実現に協力ください」と述べました。

社会を明るくする運動少年サッカー大会



「社会を明るくする運動」少年サッカー大会は6月26日～27日、7月3日～4日の4日間、相馬光陽サッカー場で行われ、市内外から8チームが参加しました。

同大会は、青少年の健全育成の一環として小学校低学年（U-10）を対象に、8人制で試合が行われたもの。

選手たちはチームの仲間とボールをつないで、試合終了のホイッスルが鳴るまで一生懸命走り、保護者たちは選手たちのプレーに熱い応援を送っていました。

●大会結果 1位Ⅱ南相馬FC、2位ⅡFC原一、3位Ⅱ相馬サッカースポーツ少年団

ブランド化で相馬の魅力をもPR「相馬ブランド」認定証交付式

「相馬ブランド」認定制度の認定証交付式は6月24日、千客万来館で開かれ、海響あおさバター（有限会社海鮮フーズ）と浜のビスコッティ（Cafe Sacheta）が認定を受けました。

同制度は、市内の優れた素材や技術を活かし、土産などに適した魅力ある加工食品を審査の上、「相馬ブランド」として認証する制度。

認定商品は、市や市観光協会、商工会議所などが協力し市内の店頭でPRするなど、

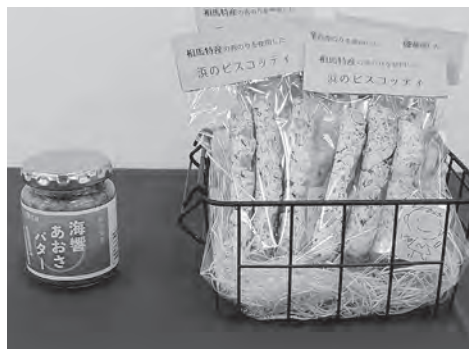
被災者の健康維持のために

紀州南高梅の寄贈

赤松宗典天如神山本誓寺住職と二階俊樹さんの2人は6月28日、市役所を訪れ、和歌山県の特産品「紀州南高梅」の寄贈を行いました。

赤松住職は東日本大震災の被災者の癒しになることを願って、紀州南高梅の実と花を送付。

その後、二階俊博衆院議員事務所への橋渡しを受けて、被災者の健康維持などを目的に地元特産の紀州南高梅などを本市へ毎年寄贈しています。



「相馬ブランド」を市内外問わず広めていくよう働きかけます。

感謝状と委嘱状の交付式 人権擁護委員



人権擁護委員の感謝状と委嘱状交付式は7月12日、市役所で行われ、延原了英さん(中村)に感謝状、加藤いづみさん(北小泉)に委嘱状が交付されました。

消費拡大で街中に活気を スーパープレミアム商品券発売

がんばろう相馬! スーパープレミアム商品券は7月4日、相馬商工会議所で販売され、大勢の市民が商品券を買い求めました。当商品券は、相馬商工会議所が地域の活性化と消費の拡大を目的に販売され、1セット1万円で1万1千5百円分の買い物ができます。



同委員は、国民の基本的人権が侵犯されることのないように監視し、もしこれが侵犯された場合には、その救済のため、すみやかに適切な処置を採るとともに、常に自由人権思想の普及高揚に努めることをその使命とする公職で法務大臣より委嘱されます。

●新任 加藤いづみ氏

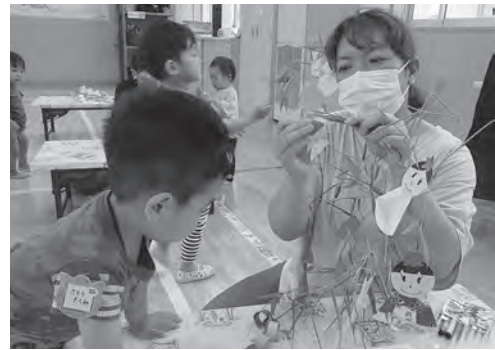
▽森さく子氏(3期目)

▽清水とし子氏(3期目)

※任期は令和3年7月1日から3年です。

●退任 延原了英氏(4期12年満了)

ミニ七夕飾りに願いを 親子教室



7月1日、相馬愛育園で親子教室が開催され、参加した親子らがミニ七夕飾りを制作しました。

同教室は、未就園児と保護者を対象にした教室で、手遊びや運動、制作遊びなどを通して、親子や友達との交流を深めることを目的に開催。

参加者らは、織姫や彦星を描いた折り紙で飾りを作ったほか、短冊に願い事を書いて笹に飾り付けを行いました。

短冊には「元気に育ちますように」や「大好きなキャラクターに会えますように」など思い思いの願いが書かれていました。

大雨で被害を受けた熱海市へ 支援物資を輸送

7月3日、このたびの大雨の影響で大きな被害を受けた熱海市(静岡県)に支援物資を輸送するため、市防災備蓄倉庫から職員2人が出発しました。

大雨の影響により、現地で大規模な土石流や家屋の流出が発生していることから支援物資の輸送を決定。

同日、2リットルペットボトル入り飲料水(2、160本)と避難所用テント(100張)を支援物資としてトラックに



積み込み、現地へ向かいました。

農地利用の最適化を目指す 市農業委員会



農業委員の任命書交付式は7月8日、市役所で開催されました。

任命書交付式で立谷市長は、農業委員13人に任命書を手渡し、「土地利用の最適化を図ってほしい」とあいさつ。

その後開催された第1回相馬市農業委員会総会で、前川正人氏が会長に再任しました。今回任命された農業委員の任期は、令和6年7月7日までです。